



Part5 「耳と肌で感じとるパラスポーツ

ゴールボール

「ゴールボール」って
どんなスポーツ？

ゴールボールは、第二次世界大戦で負傷した軍人のリハビリテーション効果を促進するために考案されたスポーツです。1976年に開催されたトロントパラリンピック大会で正式競技となりました。その後、数々の世界大会を経て、広く知られるようになりました。

ゴールボールでは「アイシールド」と呼ばれる目隠しを着用した選手3人を1チームとして、18m×9mのコートを使用して試合が行われます。選手は、コートの中の半分を自陣として決められた範囲内でボールをバウンドさせて投球します。相手チームのゴールラインを突破することで得点になります。

ゲームで使用するのは、バスケットボールほどの大きさでゴム製の穴の開いたボールです。ボールの中には鈴が入っているため、選手は鈴の鳴る音でボールの位置を知ることができます。また、コート上のラインの下には糸が通されていて、凹凸があるため、コート上のどこに自分があるのかを判断しながらプレーをしていきます。

ゲームの勝敗は試合時間内に

獲得した得点によって決まります。また、相手との得点差が10点になった場合は、その時点で勝敗が決します。

コート内で線り広げる音を使った心理戦

ゴールボールは、日本国内の大会では視覚障がいの有無や障がいの度合いに関わらず、全員がアイシールドを着用しなければならぬため、平等な条件で試合を行うことができます。また、試合中には、音を利用したフェイントや味方同士でパスを回して相手チームの守備をかく乱させるといった戦術が可能です。「音を使った心理戦」はもちろんのこと、障がい者と健常者が一つのチームとして試合に臨んでいることも大きな魅力です。

問 文化・スポーツ振興課

TEL 220・2090



写真提供：有限会社エックスワン

歴史さんぽ

七十二

舟運を見守る石燈籠



石燈籠の現在の姿

新河岸川にかかる福岡橋のたもとに鎮座する大杉神社は、明治11(1878)年に、当時隆盛を極めた福岡河岸の船問屋や下福岡に住んでいた船頭など多くの人々の尽力により建立されました。祭神は茨城県河内郡阿波村(現稲敷市阿波)の大杉神社から招いたもので、アンバ様と呼ばれ船の守護神として信仰されてきました。大杉神社の社殿は、平成24年に新たに造り替えられましたが、新河岸川を行き交う船を旧社殿とともに永く見守ってきた石燈籠のうちのひとつは、かつて福岡河岸で船問屋を営んでいた福田屋(現在の福岡河岸記念館)の庭園に移築され、今日に至っています。

福岡河岸記念館

ACCESS

● 東武東上線福岡駅東口下車西武バス南古谷駅行き「城北埼玉中学・高等学校」下車徒歩3分

☎ 上福岡歴史民俗資料館(TEL 261・6065)



大杉神社の旧社殿と石燈籠